

**第2期八戸市次世代育成支援行動計画後期計画 令和2年度実施状況に関する
質問・意見に対する回答**

事業番号 21 事業・取組名 心身の発達支援を必要とする子ども及びその家庭への総合的な支援	
質問	・教育相談部相談、専門指導部相談の件数が、それぞれ3,000件、1,000件を超えており、多いように見受けられる。これらの数値は、支援の窓口につながられているということで、ポジティブに捉えたいが、どのような相談内容が多く寄せられているのか。また、支援側の今後の課題はどのようなものなのか。
回答	<p>担当課：こども支援センター</p> <p>教育相談部は、子育てや子どもの発達・発育等の相談について対応しております。相談内容として最も多くの割合を占めているのは不登校の相談で、延べ1,804件、次いで発達行動の相談が延べ894件となっております。この2つの主訴で教育相談部の相談件数の85%を占めております。</p> <p>また、専門指導部は、主に、小学校、中学校からの依頼による巡回相談において指導助言を行ったり、特別支援教育の視点で子育てや子どもの発達・発育、就学に関わる相談に対応したりしております。相談内容として最も多くの割合を占めているのは、発達行動の相談で延べ708件、次いで巡回相談505件、就学相談延べ217件となっております。この3つの主訴で専門指導部の相談件数の74%を占めております。</p> <p>相談対応件数の増加は、家庭の子ども理解の深まりとともに、園や学校における特別支援教育の浸透も要因であると考えております。</p> <p>今後の課題でございますが、最近は相談内容が多様化かつ複雑化し、相談対応に多くの時間を要するケースが増えていることから、より専門的な知見に立ったきめ細やかな支援が必要になってきております。</p> <p>そのため、引き続き職員の資質の向上に努めるとともに、健康・福祉を含めた関係機関等とさらに連携していくことが、ますます重要になってくると考えております。</p>